

第 227号

# 連携室だより



公益財団法人  
北海道医療団

## 帯広第一病院

### 帯広第一病院理念・基本方針

#### 【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

#### 【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。



撮影者：音更病院 看護部 高田 徳恵

### 今号の内容

- ・肝胆脾外科高度技能専門医のご紹介 副院長 井伊 貴幸 部長 土屋 朗之
- ・忠類診療所内視鏡検査開始について 副院長 堀井 享 ..... (2)
- ・“肝臓”を調べてみませんか？ 理事長 三浦 雅人 ..... (3)
- ・帯広西病院で医療講演会を開催しました リハビリテーション科 言語聴覚士 西連寺 誉 ..... (4)

## 肝胆膵外科高度技能専門医のご紹介

副院長 井伊 貴幸 / 外科 部長 土屋 朗之



地域の先生方には日頃より大変お世話になっております。

当院外科の土屋朗之先生が取得しています肝胆膵外科高度技能専門医についてご紹介させていただきます。

肝胆膵外科手術は消化器外科の中でも特に難易度が高いと言われており、主に肝臓、膵臓、胆道癌などの手術を行います。この難しい手術を安全かつ確実にを行うために、一定の高難度手術を経験し、手術記録や手術ビデオの審査を通過した医師だけが高度技能専門医となれます。現在、日本全体で約500名ほどで、十勝管内ではわずか2名しかおりません。（当院と帯広厚生病院）

膵臓や胆道癌などの肝胆膵領域の悪性疾患は、抗がん剤が効きにくいいため、完治するための第一選択は手術治療ですが、出血や合併症のリスクもあるため可能な限り安全に行うことが重要となります。

地域の先生方、患者様のお役に立てるように、土屋先生を中心として肝胆膵外科の高難度手術にも対応できる体制を整えておりますので、お困りの症例がありましたら是非ともご紹介いただけますと幸いに存じます。

今後とも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

## 忠類診療所内視鏡検査開始について

副院長 堀井 享



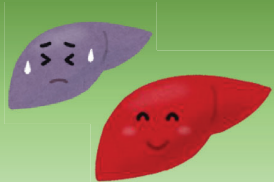
忠類診療所前任医師の塩塚先生は消化器内科医であり、忠類診療所で内視鏡検査を行っていましたが、後任の潮田先生は非消化器内科医であり、忠類診療所での内視鏡検査が途絶えておりました。地元からの強い要望があり、2024年10月より、帯広第一病院消化器内科より、月1回程度医師・看護師を派遣し、上部内視鏡検査を行うこととなりました（検査は消化器内科 堀井が行わせて頂きます）。頻度が限られるため以前ほどの件数は難しいかもしれませんが、地域医療貢献のため努めてまいりますので何卒宜しくお願ひ致します。

### 忠類診療所

下のQRコードから忠類診療所のHPへ  
アクセスいただけます。







# “肝臓”を調べてみませんか？

理事長 三浦 雅人



皆さんは「奈良宣言2023」をご存じですか？これは「肝機能検査として測定されているALT (GPT) の値が30を超えたら、かかりつけ医による採血や腹部超音波検査などを受け、必要と判断されればさらに専門医でより詳しい検査を受けることで、肝疾患の早期発見・早期治療に繋げよう」という宣言です。

ALT値は肝細胞の壊れた数を反映していますが、ALT>30ではたとえ基準値の範囲内であっても組織学的に肝細胞が破壊されている所見を認めることが確認されており、長い年月をかけて進行する可能性があります。またALT>30の中には、B型肝炎・C型肝炎といった高率に肝硬変、肝がんに進行するウイルス性疾患であることを知らずに過ごしている方がいます。現在、B型肝炎は抗ウイルス薬の内服によりウイルスの増殖を抑制し肝がんの発生率を低下させ、C型肝炎では8~12週の抗ウイルス薬の内服で副作用なく治癒させることが可能です。その他、近年飲酒や肥満といった生活習慣に関わる肝疾患が増加してきており、早期の治療介入が重要です。

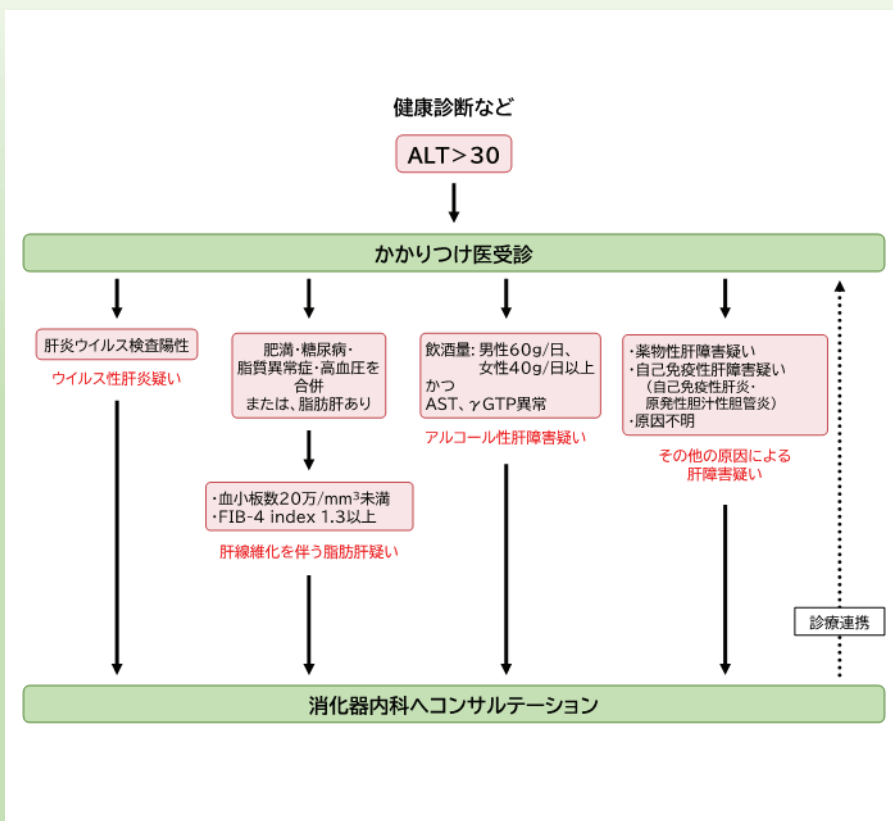
このように比較的低いALT値でも将来的に肝硬変、肝がんといった重篤な状態に進行する可能性があり、ALT>30の方はまず医療機関を受診してその原因について調べてみましょう。その結果、治療やさらに精査が必要な場合は当院消化器内科肝臓外来で対応いたします。

## 帯広第一病院 消化器内科 肝臓外来

### 受付時間

毎週火、木曜日 8:30 ~ 11:00

下のQRコードから帯広第一病院HPへ  
アクセスいただけます。



# 帯広西病院で医療講演会を開催しました

## リハビリテーション科 言語聴覚士 西連寺 誉

十勝管内の皆様には平素より大変お世話になっております。

10月21日（月）に帯広西病院におきまして、日本における嚥下障害リハビリテーションの先駆者である本多知行先生をお招きして医療講演会を開催いたしました。本多先生は5月9日の『ゴックンの日』制定に携われ、日本各地でご講演をされるなどご活躍されております。講演会はZOOMを併用したハイブリット開催とさせていただき、参加者は当法人職員だけではなく、十勝エリアの言語聴覚士や介護事業所職員の皆様にも多数ご参加いただきました。講演



会の中では摂食嚥下リハビリテーションに関する内容だけでなく、障害を持つ方の嚥下の大変さを実際に参加者が体験する実験などもあり、より嚥下への理解が深まりとても有益な講演会になったと実感しました。

翌10月22日（火）午前には病棟で実際に患者様、利用者様の情報確認をしながら先生よりご指導いただきました。



特にもう一步踏み込んだ情報共有についての必要性や方法について、また評価のタイミングやより高度な評価の必要性についてもアドバイスを頂きました。今まで言語聴覚士として漠然としていた方向性が明確化したように感じました。また、本多先生の指導には熱意があり本気な様子が伝わり、患者様、利用者様に向き合う姿勢から見直す必要性を感じました。

最後となりますが、今回の講演会、回診、ランチョンミーティングでは自分自身準備段階から参加させて頂きとても勉強になりました。帯広までお越しいただいた本多先生、実際に先生を呼んでくださった当院院長、企画・準備・実施で協力して頂いた方々、実際に参加して頂いた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)

FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

